

青森県東通村入口・むつ市大畑町小目名のテラ行事調査報告

古川 実¹⁾

The Report on Tera ritual at Iriguchi(Higashidori, Aomori prefecture)
and Ohatamachi Komena(Mutsu, Aomori prefecture)

Minoru KOGAWA

(キーワード: テラ ババ連中 念仏)

はじめに

青森県下北地方における「テラ」、「テラこ」などと呼ばれる宗教的な施設と、その場でムラの女性たちが行う諸行事などについて、平成25年度は佐井村福浦、平成26年度は東通村大利・尻労の調査報告をこの紀要に記録してきた²⁾。引き続き本年度も東通村入口とむつ市大畑町小目名での調査報告をする。

下北地方の女性たちが伝えてきた、例えば小正月の田植え踊りなどの民俗は、本県の他の地方に比べ伝承力が強いものと漠然と感じていたのであるが、生業形態の変化や人口減少による影響などがやはり及んでおり、テラ関連の民俗も今後の伝承への不安が生じているようである。女性たちが担い手となる民俗に重点をおいた調査が少ない状況で、それらの記録化は一層急ぐ必要があるものと考えられる。

1 調査地の概況

東通村入口は、下北丘陵から北流する入口川の河口にあり津軽海峡に面した集落である。生業は漁業を主にし、昆布採取など沿岸域での漁獲を中心としてきた。平成27年12月末現在の世帯数は118³⁾。明治初年の「新撰陸奥国誌」には東通の野牛村の支村で、家数9と記されている⁴⁾。入口に最初に住んだのは現在本家、古い家とされる3軒で、昆布の若生採取で生計を立てようとして移住してきたという。産土神社は入口稲荷神社である。

むつ市大畑町小目名は、下北山地から東流し津軽海峡に注ぐ大畑川沿いの集落である。小目名から4キロメートルほど下流が河口で大畑港がある。国有林の伐採など山仕事に従事する者が多い。かつては船が大畑川を廻り小目名で木材などの積み出しをしたという。平成27年1月の世帯数は36(小字小目名村の世帯数)⁵⁾。「新撰陸奥国誌」には大畑村の支村で家数35軒と記されている⁶⁾。産土神社は大山祇神社で貞享年代(1684-1687)に草創とされる。また、羽色(葉色)神社を祀っており、このため火事を出さないために小目名では井戸は掘らず、ミヨウガを植えてはいけないとされている。

2 東通村入口のテラの行事

(1) テラの概要

入口の東側の高台に入口のテラがある。寺号はなく普段から「テラ」と呼んでいる。祭壇を設置する部屋が中央にあり、南側に台所、北側に葬具などを置く部屋が設置されている。祭壇にはミライ(阿弥陀如来)様と呼ぶ白い仏像があり本尊としている。戦前に寄付された仏像だという。本尊の隣に観音様、高さ20センチメートルほどの厨子に入った弘法大師像なども祀られている。祭壇そばの壁に弘法大師の掛図が掛けられており、そこにも小さい祭壇を設けている。テラでの弘法大師祭祀との関連は未調査であるが、入口の本家にあたる家5、6軒では小さい厨子に入った弘法大師の像を持っており、以前は順番で各家に集まり弘法大師を拝んだという。そのうちの田中家が持っている弘法大師の厨子の中には、香園寺の名があるお札が一緒に入れてあった。

壁上には昭和33年6月17日にこのテラの落成記念とし掲げられた「為寺新築寄付者御芳名」の額があり、寄付者名簿には、入口部落、入口青年会、入口青年団、入口婦人会、稲崎老婆連中などの諸団体が記されている。

テラには、そのほか大数珠、十三仏の掛図、葬式用の祭壇・葬具も置いている。小さい祭壇は2千円、大きいのは2万円で貸しており、婆連中(普段はババドと呼ぶ)の収入になる。部落総代が買ってきた部落事務所で用意する祭壇があったり、14年ぐらい前からホテルで葬式をしたりする人も出てきて、テラで用意しているものは借りられなくなった。それでも葬式の念仏はババドを頼んでいるという。

(2) テラを管理する組織

テラと墓地を管理するのは、入口の女性たちによる組織である入口婆連中である。家にホトケができるとホトケを守るためテラに行くことになり、自然と婆連中になるという。従って、年齢は関係ない。婆連中のうちの年頭とも呼

1) 青森県立郷土館学芸課長(〒030-0802 青森市本町二丁目8の14)

ぶ年寄りたちが会長ほかの役職になっている。

テラの行事や年寄りたちの世話は、入口の組の回り番で1年交代となっていて、「バンコで世話する」などという。11月23日を婆連中の総会としており、そこで役職やバンコを決め12月から新組織で行うこととしている。最近では勤めなどで不在の場合があり、係やバンコをお願いしにくくなっているという。バンコをお願いする各家には、年頭が告げて歩いている。

入口には年寄りの会としては老婆会と老友会とがあり、婆連中の年寄りが老婆会の会員と重複するようである。テラには老婆会からの寄付金に対する、老友会からの感謝状が掲げられている。

(3) 行事

テラでは、毎月24日の午前9時ごろから婆連中の主に年寄りが集まり念仏を唱え、次にカネを叩いて数珠回しをする。終わると昼飯を食べて時を過ごす。このほかに年間の行事として、次の行事が行われている。

1月16日 正月のお参り 2月15日 涅槃 3月20日 春彼岸 5月8日 花見会
7月24日 恐山祭り 8月16日 盆供養 9月20日 秋彼岸中日 11月23日 婆連中総会

1月16日は、正月のお参りで通常のとおり念仏で集まる。なお、正月のお供えなどは、年越し前にテラにトシナを張り、二重ねのお供え餅をあげる。この日は以前は婦人会があって、田植え・餅つき踊りに歩いていたが、今はやっていない。入口ではオシラサマを祀っているのは1軒あるが、オシラサマを祀るために各家の人が集まるようなことはしていない。2月15日は、涅槃の日でテラに集まり念仏をする。

春と秋の彼岸にはテラ参りをする。まず墓所にお参りしてからテラに入り、彼岸団子、お菓子と茶碗に入れた水を祭壇にあげ、鉦を叩いて拝む。彼岸団子（イマサカ団子、赤団子とも呼ぶ）は、各家でモチ、ウルチ半々の粉で丸めた団子の中に餡を入れたもので、径5センチメートルほどの大きさである。団子の真ん中を食紅で丸く色を付ける。ヒトムケ5～7個あげるが、親戚のホトケにもあげるので、結構な数を作る。

秋彼岸の様子は次のとおりである（平成27年9月23日調査）。婆連中のバンコや年寄りが8時すぎから集まり、台所と祭壇の準備を行う。10時ごろご飯が炊きあがり、ご飯と水を婆連中の会長の指示で祭壇に供える。次に一同が祭壇を前にして座り、会長ほかの年頭に合わせて念仏を唱える。念仏はオヤマ念仏、彼岸和讃、一心頂来である。10時30分ごろ終了。その後は、おにぎりやバンコが作った料理で会食する。この日の参集者は11人であった。

4月8日は、花見で草餅を作り供える。花見では十三仏の掛図をテラに掛ける。7月24日は、恐山の祭りで、テラに集まり念仏をする。若いときは、各人がお山（恐山）に参詣もしたが、今は行く人はない。

11月23日は、婆連中の総会で、祭壇のロウソクなどを付けて、会長が一心頂来を唱え祭壇にお参りする。その後総会となり、終わってからヘチョコ団子が入ったお汁粉をみんなで食べる。

念仏で集まると、ナンマイダブツを唱えて数珠回しも行うことがある。以前は百万遍といって春の2、3月ごろに入口を回る数珠引きもした。そのときは終わってから食べたり遊んだりするアドフキが楽しかった。入口の大数珠は、ニシン場で亡くなった人の供養に個人が寄付したもので、大数珠の珠が胡桃でできている。318個の珠に、木の大きい珠が4個。数珠を回している輪の真ん中に鉦を置き、それに数珠を引っぱっている人が賽銭を入れる。これは婆連中の運営資金としている。

念仏の後のお昼ご飯は、前は各人がごちそうを持ち寄った。今はおにぎりを持ち寄り、バンコが料理を作って出す。婆連中による行事のほかに、11月24日の大師講には各家でテラにお参りし供物をあげるなど、家ごとの行事にもテラにお参りする。

(4) その他

死者が出ると喪家から知らせがあり、婆連中の何人かが行って十三仏の念仏を唱える。また、八日念仏といって八日間念仏をする。通夜、湯灌のときの念仏があり、通夜では男の場合はフナワサン、女の場合はヤイザクラ（クロタニ和讃とも）、湯灌のときは湯灌念仏を唱える。

念仏はいくつもあり、今の人は全部やれなくなっている。以前は念仏を覚えないと立たせられるなどした。それではないと伝えられないという面がある。御詠歌は本寺の法林寺（同村蒲野沢）で習ったこともあった。テラの各行事には念仏を2、3あげている。念仏はもっと数多く伝えられていて録音したものもあるが、人が集まらず継承は難しくなっているという。

3 むつ市大畑小目名のテラの行事

(1) テラの概要

小目名のテラは、集落入口にある墓地と集会所の奥にある。祭壇、台所があり、壁には小目名各家の位牌棚が設置されている。祭壇中央には地蔵の石像があり、台座に享保16年（1731）、願主、施主の名が記銘されている。これが小目名の地蔵様でテラの本尊である。本尊の両側に厨子に入れた小さい地蔵があり、向かって左の地蔵は子育て

て地蔵で左の地蔵の由来は不明。右側には木製の大日如来像も祀っている。祭壇奥に十三仏の掛図を掛けている。

テラの寺号などは無く「オテラ」、「テラコ」と呼び、地蔵堂とする場合もある。現在のテラは、老朽化が著しくなったため20年ほど前に建て直したもので、当時の部落会長が大畑の大安寺建て直しの際、使われなくなった建材をもらってきて建てたものだという。

(2) テラを管理する組織

テラの管理運営は小目名の主婦たちが行っていて、小目名の家並み順で班分けし、1年交代で当番となる。かつては10軒で1班とし7班あったが、家数が減少し現在は4班となり8軒の班もある。当番班では各家から若くても1人はテラの世話に出ることになっていて、鍵の管理や各家からの運営費の集金、各行事で使われる用具の準備などを行っている。

以前は毎月24日にテラにババド（年寄りの女性たち）が必ず集まって念仏をしていた。そこで念仏の集まりを二十四経会と呼ぶ場合がある。また、ババドは小目名老婆の会という組織になっている。テラの壁には小目名の神楽殿新造にあたり、老婆の会から寄付があったことに対する小目名神楽会長、小目名部落会長からの感謝状が掲げられている。現在、年寄が少なくなり若い人も仕事が忙しくて、24日には集まらなくなった。

(3) 行事

テラに掲示されている二十四経会の年間行事は次のとおりである。

1月5日 お供えおろし 2月6日 百万遍回し 旧正月 托鉢（大安寺住職） 3月6日 百万遍回し
 3月15日 涅槃 3月21日 春彼岸 4月6日 百万遍回し 7月 お寺の祭り
 8月16日 灯籠流し 8月20日 托鉢（大安寺住職） 9月23日 秋彼岸
 12月6日 百万遍回し 12月 お寺の年取り

百万遍回しは、2月、3月、4月、12月の6日に行われる。1月は正月だから行わず、また5月から11月は農作業が忙しく行っていない。各月の6日に行うのは、昔から年寄りがやっていたことで、むよか（6日）にムラに悪いことがあって、その日を小目名の厄日とし、悪魔を払うため数珠を引っばるのだという。

平成27年12月6日に行われた百万遍回しの概要は、次のとおりであった。この日は16人集った。8時30分ごろテラの戸の鍵が開けられ、9時ごろには人が集まる。祭壇に水を小さい茶碗に入れてあげ、大数珠が置かれる。各人は祭壇にお参りしてから、自家と親戚の位牌棚にアガシコ（灯明）を点け、水とお菓子などをお供えする。年寄りにはテラに残り、歩ける人は大数珠を引き、別に2人が小豆ママ（小豆ご飯）をお供えするため車で出かける。

数珠引きの行列は2列となり、先頭は鉦叩きと手に数珠を持つ人、その後に大数珠を綱のようにして各人が持って続く。テラから出発し、鉦を叩きながら進んで、まず小目名の山手の民家のはずれ、羽色神社の鳥居前で大数珠を回す。終わると大数珠を綱状にして横列となり、悪いものに出て行ってもらう文言を言いながら大数珠を前後に振り、最後は山手に向かって大数珠を押し出すようにする。次は旧小学校付近の道路端、次に小目名橋付近、次に橋を渡った先の家のはずれ、次に戻ってきて墓地付近の高橋川集落に向かう道端の計5ヶ所で同様のことを行う。この5ヶ所には車で出た人が、小豆ママ（小豆飯）一つまみくらいと賽銭を置いてくる。4月6日が年の初めの数珠引きで、12月6日は年の最後だから、12月は1年お世話になった神仏へのお礼として置く。

10時40分ごろにはテラに帰り、一同揃ったところで祭壇に向かって念仏をし大数珠回しを行う。念仏はムラ回りでは「ナムサンゼン カンゼオンコ」、テラでは「ナムサンゼン ショウブツ」「ナムジゾウ ダイボサツ」と「オヤマ（恐山）」を唱える。数珠回しの最後には、数珠を各人が体にこすり付けお祓いをする。このときは、祭壇中央に不動経を覚えている人が座り唱える。現在、不動経を覚えている人は、テラに集まる年寄りのうちのただ一人だけだという。

3月15日の涅槃では、各家で団子を作りテラに持って行って供える。祭壇には釈迦が寝ているのを真ん中にして、悪いことをして引っばられる絵など三つの掛図をかけ、涅槃の念仏を唱える。団子は真ん中を赤くした団子で、団子が一番多く供えられる行事である。彼岸では、テラが大安寺（曹洞宗）の末寺なので大安寺の檀家が集まり、檀家でない人は大畑の寺に各人参っている。以前は大数珠も回したが、人手が少なくやらなくなった。

平成27年のテラの年取りは12月20日（日）に行われ、その概要は次のとおりであった。午前8時30分ごろテラを開け、集まった人は、まず自家と親戚の位牌棚に水と小豆ご飯、ゴマ餅、お菓子などをあげる。人が揃うと団子作りに取りかかる。テラの隣の公民館の台所と広間を使い、団子、お供えの餅を大勢で手分けして作るのにぎやかである。テラでは年寄りが残り、墓地の地蔵様に付けるシロと呼ぶ頬被りを作る。シロは晒し布で長さ2尺3寸3分の大きいのを10枚、1尺3寸3分の小さいのを4枚用意する。

10時30分ごろに団子作りが終わりテラに集まる。祭壇の中央の地蔵、向かって左の地蔵、右の大日如来に三重ねの餅を供える。また、赤い膳に載せた団子ソウワを二つあげたうえ、仕出し弁当5個を供える。ソウワは団子55個をピラミッドのように積んだもので、全部で110個の団子をお供えすることとなる。全員には餡入りの団子を配

り、これを念仏の前に食べる。この間に3人が墓地の地藏様のシロを新しいものに換え、径3センチメートルほどの団子を供える。小目名の墓地の道沿いには、六六地藏や無縁の地藏の石像、三界万霊塔、石碑などが14基祀られており、そのすべてのシロを換え、それぞれに団子1個を供える。ただ三界万霊塔にはホトケがいっぱい寄ってくるので団子2個をあげている。以前はもっと数多く団子をあげた。

シロを換えた人が帰り全員揃うと、御詠歌を習っている3人が祭壇の前に出て、鉦を叩き念仏を先導し唱和する。開経偈、大聖釈迦如来成道讃（梅花流）、オヤマ、南無大師釈迦如来の念仏を唱える。11時30分ごろ終了。その後は昼ご飯を食べるなどして、14時半ごろには供物を下げる。

正月のお供えは年越しに行い、それを下げるのが1月5日となる。托鉢は本寺である大安寺の住職が小目名に来て、テラでお経をあげるが、以前は各家を回って歩いた。

(4) その他

以前は家で葬式をしていて、そのころは葬式の後に念仏をして大数珠を回していた。今は檀那寺で葬式をすることが多く、数珠回しもやらなくなった。テラには十三仏の掛図を置いているが、人が亡くなったときに掛け図を持って行くことはない。ただ、「十三仏 帰命頂礼」と唱える念仏はある。

普段、テラでよく唱える念仏は、一心頂来、般若、南無釈迦である。御詠歌の先立ちになる人がいて、津軽スワに習ったこともあるのだが、百歳くらいの高齢で病院に入院しており、それでできない念仏もある。御詠歌をできるようになるためには修行が必要で、上達すると位が上がり持つ数珠が白房、水色の房など違って来る。声の善し悪しもあり、習っても追いつけないので抜ける人もある。

テラに集まる人の中で最年長である話者は、家に不動様と弘法大師を祀っているので、毎日不動経と大師誕生和讃を唱えているという。また、仏様には般若心経、賽河原和讃を唱えているが、念仏はあまり知らない方だという。テラで習ったり、和讃の本を見たり、田植えのときも般若心経を唱えるなどしたが、なかなか覚えられなかった。しかし、歳をとってくるといつの間にか覚えるようになった。死ぬのが近くなって念仏が必要になってきたからではないかという。

4 資料

東通村入口で念仏・御詠歌の文句や唱える調子をノートに書き留めたものをいただいたので、ここに掲載する。表記や調子の強弱・長短を独自に書き込んでいて煩雑なところがあるため、改行している部分を「/」で、長音と思われる部分を「ー」で、「ワ、ハ、オ、ヲ、ジ、ヂ」は現行通用の表記に改めた。

ヒガン ゴワサン

- 一 ヤマカワケワシキ ヨナレドモ/ホトケノオシエ ヒトスジニ/ヒガンニイタル シアワセヨ/アーメツチニ
ヘガウララ/クオンノスクイ ココニアリ
- 二 アマネクホドコシ イマシメテ/ヘニヨニハゲム モロビトヨ/ヒガンノハナノ ウチクシサ/アーサワヤカニ
コノウタゲ/タエナルシラベ ユメナラジ
- 三 ココロサダメテ ハラタテジ/ソセンニイノリ コメテコソ/ヒガンヲムカウ オヤモコモ/アーイマヒラク
コノサトリ/アラシモシバシ ユキモヤム

ツイゼンクヨウ ゴワサン

- 一 タマトムスビテ ハチスバニ/オキタルツユノ ヒトシズク/ナガキハヒトノ ネガイニテ/ミズカキモノハ
イノチナリー
- 二 キノウアリシハ キョウハユメ/ウツツニミユル ミシガタハ/ココロノナカノ カゲニシテ/アワセルテコソ
マコトナルー
- 三 ミナオシズカニ トノオレバ/オモイハサラニ イヤマシヌ/オノズトニジム ナミダニモ/エニシノフカキ
ユエラシルー
- 四 ハナノイロカニ ハエワタリ/マゴコロアカシ ミアカシハ/マイラスコーノ クユリカゾ/ホノボノキヨク
カオリツツー

ドウギョウ ゴワサン

- 一 オナジホトケノ ミコトシテ/ムスブココロノ キヨキトモ/タガイニハゲマシ イタワリテ/ドーギョウー
ドーシュノ ミチヲユク
- 二 ヒビニツトメヲ ハタシテハ/ユウベニオーモウ シアワセヨ/オシエノヒートツ ヒトツコソ/クマナキジ
ヒノ ヒカリナリ
- 三 ユクテハルカラ ミワタセド/ミチノマコトハ スグチカク/タガイノムーネニ アルヲシル/ドーギョウー
ドーシュノ ヨロコビヨ

ホウシャ ゴワサン

- 一 イチジュノカーゲノ ヤドリサエ／クーシキエニシト シルモノヲ／ヒートノナサケニ ヤドカリテ／シーバシ
ヤスロウ ウレシサヨ
- 二 イチガノナーガレ クムニサエ／フーカキメグミト シルモノヲ／マゴコロコーモル アツキチャニ／ツカレヲ
イヤス アリガタサ
- 三 イチゴイチエノ ヒトノヨハ／トートキモノト シルモノヲ／ミアツキキョウノ オモテナシ／イカデワスレン
モロトモニ

シュショウギ ゴワサン

- 一 フリニシヨヨノ ツミトガハ／ミコギノゴトク フカクトモー／クユルココロノ アサヒニハ／キエテアトナク
ナリヌベシ
- 二 ミヨノホトケノ ミオキテヲ／マサシクウケテ ウタガワヌー／ヒトハソノママ ホトケナリ／ワガミナガラニ
トウトシヤー
- 三 ワレハホトケニ ナラジトモ／イキトシイケル モノミナラー／モラサズスクイ タスケント／チコウココロゾ
ホトケナリー
- 四 アサナユウナニ ヒトミナリ／ミノホドホドニ スルワザラー／ホトケノフカキ ミメグミニ／ムクイマツルゾ
タノミケレー

ダイショウシャカニヨライジョウドセイドウ ゴワサン

- 一 シワスノヨーカ アサマダキ／ボダイノカゼ サワヤカニ／ココロノヤミヲ ハラワレシ／メザメノヌシノ シ
ャカセソン
- 二 ムトセノクギオー カサネキテ／ソナワルオノガ タマノオノ／タエナルイノチ サトラレシ／オシエノヌシノ
シャカセソン
- 三 クオンノネガイ フカクシテ／モノミナスクイ タマワント／チカイノミチハ イデタモウ／スクイノヌシノ
シャカセソン

シャクソンハナマツリ ゴワサン

- 一 ミチトセムカシ ルンビニノ／ハナノミソノニ アレマシシ／タマノオージハ ヒトノヨノ／スクイノミオヤト
ナリタモー
- 二 テンニモチニモ ヒトリナル／ドートキワレニ メザメヨト／オシエタマイシ ノリノハナ／ノーチノヨマデモ
カオルナリー
- 三 ココロノハナモ サキニオー／ウヅキヨーカノ ハナマツリ／オサナスガタノ ミホトケヲ／キーヨメマツリテ
イワワナンー

ダイショウシャカニヨライネハン ゴワサン

- 一 クシナノホトリ カゼオチテ／ナガレハムセブ キサラギノ／モチノチキカゲ キヨケレド／カナククモニ カ
ゲリユケー
- 二 ソウジュノサラニ サキミチテ／マシロキハナハ ニオエドモ／チルヲサダメテ ハナナレバ／ハラハラチリテ
スベモナシー
- 三 オシエノママニ シタガイテ／オキテヲマモリ ユクミチノ／ソコニホトケノ イノチアリ／オコタルナガレ
モロビトヨー
- 四 ヒトキワハナハ チリシキル／サイゴノコトバ ノコサレテ／イマシズカニ シャカムニハ／ネハンノマナコ
トジタモー

ジゾウボサツ ゴワサン

- 一 ツユシモシゲキ ノノミチニ／ホホエムスガタ アタタカク／ミテラノモンノ アルトコロ／エガオアカルク
オワシマス
- 二 チチヲバシタイ ハハヲコイ／セツナキコエニ タズネユク／オサナキコラヲ ヒキヨセテ／ツツムコロモノ
ジヒノソデ
- 三 コノヨノキョウノ クルシミモ／ワガミノアスノ カナシミモ／タイジュノチカイ フカケレバ／タノムココロ
ニ カゲハナシ (7月24日)

ウラボン ゴワサン

- 一 マブタヲトジレバ アリシヒノ／オモカゲウカブ ミホトケヨ／ヨロコビウカベシ ウラボンエ／エーノツノツ
ードーイ アリガタヤ
- 二 ナガルルトーワノ トキコエテ／オシエニメザメシ モロビトト／ゴゼンノマーツル ウラボンエ／エーサーサ

グマコトノ オンクヨウ

三 ミナモニハーユル トモシビニ／ナーガキヤスラギ ネガイコメ／ソーレニオークル ウラボンエ／エートート
キマツリニ ミチオスル

ココロノヤミ ゴワサン

一 ココロノヤミヲ テラシマス／イエトモトートキ ミホトケノ／チカイヲネガウ モノハミナ／ナムキエブツト
トナエヨヤー

二 ウキヨノナミヲ ノリコエテ／キヨキメグミニ ユクノリノ／フネニサオサシ モノハミナ／ナムキエホート
トナエヨヤー

三 サトリノキシニ ワタルベキ／ミツオツタエス モロモロノ／ヒジリニタヨル モノハミナ／ナムキエソート
トナエヨヤー／ナムホンシン シャカニョライ

ツイチョウ ゴワサン

一 ソノナヲヨベバ コタイテシ／エガヲノコエハ アリアリト／イマナオミミニ アルモノヲ／オモノハムネニ
セキアゲテ／トドムルスベラ イカニセン／アフルルモノハ ナミダノミー

二 タチテハノボリ ノボリテハ／カナシクコル コウノカニ／カジカジウカブ オモイデヨ／ソナイシハナハ
ソノママニ／ミタマノザヲバ ツツムナリ／キヨキガウエニ キヨカレトー

三 ヒトヨノイノツ イタダキテ／アウコトカータキ エニシヲバ／ユメマボロシト ナドカユー／ウツツノカゲハ
キユルトモ／ウツロウモノカ アワシテニ／チギリテフカキ マゴコロハー

シショウボウ ゴワサン

一 シアワセネガイ モロトモニ／モノトオシエヲ ワカツアイ／フウククマコトノ イトナミニ／ヒトミガサトリ
ノ ミチオスル

二 ジヒノココロノ イズミヨリ／キタツアイノ コトノハハ／ナゴミノエガオ トワニウミ／ヒトノヨウゴカシ
ツカラガイ

三 オノレノサツヲ サキトセズ／ヒトノタメニト ナシワザハ／イキトシイケル モノミナノ／ヒカリトナリテ
ヨヲテラス

四 ヒダテノココロ ナキユイニ／ナガレノウミニ イルニミテ／トモニイキント アイシトイ／ハゲマスクラス
サワヤカサ

ボンクヨウ ゴワサン

一 トシツキイチカ カサネキテ／トクナリタール ミオヤタツ／イーカデハシレン ミオシエノ／キビスキコエ
ト ネガオーバ

二 キヨキヲカカン ミアカステ／ミマエハハイル ハナノカゲ／ワガハラカラヨ イトシゴヨ／オモカゲカーナシ
アリシヒノ

三 ヒロキハホトケノ ジヒニシテ／フカキハササグ ワガマコト／テーヲバアワセテ ケフノヒノ／ヒトヒヲトモ
ニ ヤスラワン

クロタニ ゴワサン

一 キミョウチョウライ クロタニノ／インコウダイシノ オシイニハー／ニンゲンワジカ 五十年／ハナニタトイ
バ アサガオノー／ツユヨリモロキ ミヲモシテ／ナゼニゴショウ ネガワヌゾー／タトイウキヨニ ナガライテ
／タノシムココロニ クラシトモー／オイモワカキモ ツマモコモ／オクレサキダツ ヨノナライー／ハナモモミ
ヂモ ヒトサカリ／コヨイマクララ カタムケテー／スグニトシヲ シルモアリ／アサナニ ワライス／オサナ
ゴモー／コヨイアラシニ サソワレテ／ツユトキノユク アワレサヨー／ウイテペンノ ヨノナライ／キョウハタ
ニンノ ソウレンスー／アシハワガミノ オウルゾウ／コレヲオモイバ オノズカラー／ネンブツトナイテ ネゴ
ウベス／ナムアマダブツ アミダブツ

ショウボウ ゴワサン

ハナノシタニ カダホイニ ユキノユウベニ ヒジヲサシ ヨヨニツトウル ミツワシモ ヨリニタグイハ アラ
イソノ ナミモイヨセヌ タカイワニ カキモツクベキ ノリナラバーコソ

シュウギョウ ゴワサン

アーリーガーターヤー タカノノヤーマノ イワーカーゲニー

一 マツダイシュジョウノ ワレワレニー 二 シメシタマイル ミワートウパー

三 ドウギョウニニンノ ツイハスラー 四 ショコクシュギョノ ヒトビトハー

五 アメノフルヒモ カゼノヨモー 六 ジヒノオオンテニ イダカレテー

七 メグルニツレテ ボダイシンー 八 ヒラカゼターモー ヘンジョソソ

ダイーシワーイーマーニ オーワーシーマーシーマーシー

舍利礼文 シャリライモン

イチシンチョライ マントク／エンマン シャーカーニョーライ／シンジンーシャーリ ホンヂーホッシン ホツ
 カイトウバ／ガートウライキョウ／イーガーゲンシン／ニユウ ガーガーニユウ／ブツガージーコーガーショウホ
 ーダイ／イーブツジンリキリーヤクシュージョウ／ホツホーダイシン シユウホーサチギョウ／ドウニユウエンシ
 ャク ヒョウドウダイチー／コンショウチョウライ

オヤマネンブツ

- 一 アリガタヤ ナンプノオソレザン
- 二 マエウミウシロハホケキョ オヤマナリ
- 三 ホトケノ チカイモアラタナリケリ
- 四 テラノ オニワモキレイニナリケリ
- 五 サーテモメンリナ コノテラヨ
- 六 ミギリヒダリニ ウメ サクラ
- 七 リハイホンズニ タカヤマニ
- 八 コンノ ケムリモ オダヤカニ
- 九 ナムヤダイシノ クワンゼンオン

サンバオライ

- 一 サーンバオーイー ハーセランーメベイーナム／ホージョー シャーガーソーンー
- 二 ホーンゼインガンー コーケインケンードー／ナムホシーン シャガマーソーンー
- 三 四十九ネンモセシセシーナム ホーンシンシャカーソーンー
- 四 イーゲーミソーコーンジンーダーナム／ホンシン シャカーソンシンー
- 五 ショーホゲンゾーシーフンゾー
- 六 バツダイーガーヘイユー ネウーハーンーナムー／ホンシーシャカーソンナム
- 七 シーマーコージジューゴンゾーナムー ホンシンシャガーソウシンー
- 八 インヤクーニーデーブーシャーリー／ナムーホンシシャーソーンー
- 九 ジユウザイーレオーセーンーフーメラシラド／ナムーホンシンシャカマーソーシー
- 十 五オオ百ウウーダイママンカーイマンーナムー／ホンシャーカーソーキンー
- ナムー シャカー ムウニーンーブツー 三回
- ナムー ジゾーダイボーサーツー 三回
- ナムー ダイシークワンゼンーオーンー 三回

アミダ

ナムアミダ／ナムアミダブツ／ナムアミダブツ／ナムシャカムニンプツ／ナムシャカムニンプツ／ナムジゾウダ
 イボサツ／ナムジゾウダイボサツ／ナムヤオヤマノジンゾウサマ／タシケタマイヤジゾウサマナム／サイノカワラ
 ノジンゾウサマ／タシケタマイヤジンゾウサマナム／ゴクラクジョウドノマンナカニ／ハタオリフメコヤオリマシ
 ルナム／ナンノハダタトトイケケヤ／ジゾウヤボサツノケサコロモナム／ハジシノイドトテラマダラオル／イツジ
 ョウオーレヤチチノタメナムー／ニジョウオーレヤハハノタメ／サンジョウサンジャク／オリオサメナム／アーミ
 ンダーブー／ナムーアーミーダーブツ／ナムーアーミーダーブツ

フナワサン 男用

- 一 キミョウチョウライ テンジクノミー
- 二 アマノカワラノ ゴゼノフネナムー
- 三 フネニナルキハ ナニヨカロー
- 四 フネニナルキハ メギヨカロナムー
- 五 フネハシロガネ ロハコガネイー
- 六 ハシラハギンキンノ マキバシラナムー
- 七 オモテニケジョウノ ダイジンゴー
- 八 ニノマーハカシガノ ダイミョウジンーナム
- 九 サンノマーハジマンー ダイボサツイー
- 十 トモニムゴーノ ワゴジナヨーナムー
- 十一 ジッポウセカイノ ケダアゲテイー
- 十二 ナムニロクージノー ホーアゲテーナムー
- 十三 マーツカハンニャノ カーゼーラエモツー
- 十四 ニシヘニシーハーシレドモーナムー
- 十五 ニシハーサイホノ カーイーソラー
- 十六 ゴクラクジョウドノ キシニツクー
- 十七 ハハーハテンカノ ミダニョライー
- 十八 ミダーノジョウドニ オサメテオクーナム

ヤイザクラ 女用

- 一 キミョーチョウライ ワガオヤヨー
- 二 ウイデサダテダ ヤイザクラーナムー
- 三 イダハ百ハツ ハナハモズー
- 四 シタノコイダノ ホトトギスーナム
- 五 ハナモソザスナ イダオルナー
- 六 ソレホドタイセツ ハナナラバーナム
- 七 ソラフクーカゼニモ フタラセヨーナム
- 八 ヨウコソツメダヨ トトギスーナム
- 九 カミヲオガマバ オヤガメーナムー
- 十 オヤニマスタル カミハナシーナムー
- 十一 オヤハテンカノ ミダニョライー
- 十二 ミダノジョウドニ オサメオクナムー

十三ブツ

ナム十三ブツ ナムアマミダー／タースケタマイヤ 十三ブツ／アノヨノジョウドニ／ウケタマイ／フドウシャカ
モンジュウ／フウゲンジンゾウ／シロクヤクシクワンノンセイシ／アマミダーシヨクダイニツ／コンゲンゾー 五回
オージョメイドノ ソノトキニ／オネンブツーベン モウサレタ／タダイマモウシ オネンブツ／ウケドリタマイ
ヤ ナミアミダ／ナムアマミダーブツ ナムアマミダ 五回

ジュズネンブツ

- 一 ナムシャカ ムニンブツ 四回 二 ナムジゾウ ダイボサツ 四回
- 三 ナムイメイ ダイボサツ 四回 四 ナムダイシ クワンゼンオン 四回
- 五 ニダロタメ ナンマイダブツ 四回
- ナーマイダブツナーマイダ ナンマイダ ナマイダ 四回

ユウカンネンブツ

ワーシミモーゴダララゲー／オーミージーノーゾーウームニ／シャカーニーファーカーレーデー／ゴダララゲ
ニ／ナームーシャガーニョーライ 三回

《注》

- 2) 古川実「青森県佐井村福浦のテラ行事調査報告」(『青森県立郷土館研究紀要 第38号』2014)「青森県東通村大利・尻労のテラ行事と念仏行事調査報告」(『青森県立郷土館研究紀要 第39号』2015)
- 3) 東通村ホームページ <http://www.vill.higashidoori.lg.jp/keiki/page000002.html>
- 4) 青森県文化財保護協会『新撰陸奥国誌第3巻 みちのく双書第17集』(1965)
- 5) むつ市ホームページ <http://www.city.mutsu.lg.jp/index.cfm/13,5623,13,287,html>
- 6) 青森県文化財保護協会『新撰陸奥国誌第4巻 みちのく双書第18集』(1965)

(参考文献)

- 青森県史編さん室『青森県史 民俗編 資料下北』 2007
- 青森県文化財保護協会『新撰陸奥国誌』第3～4巻 みちのく双書第17～18集 1965
- 笹澤魯羊『大畑町誌』 1963 (『下北半島町誌』上下巻 復刻 名著出版 1980)
- 角川日本地名大辞典編纂委員会『角川日本地名大辞典 2 青森県』 1991
- 九学会連合連合下北調査委員会『下北 自然・文化・社会』 1967
- 東通村『東通村史 民俗・民俗芸能編』 1997
- 東通村教育委員会『青森県下北郡東通村民俗調査報告書第1集 東通村入口・上田屋・蒲野沢』 1980



入口の念仏の様子



小目名の百万遍



入口の大数珠



小目名の念仏の様子